

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

おはようございます。みらい創造クラブの東野でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、姫川港西埠頭2号岸壁（水深11メートル）の整備について。

近年、セメント国内需要が伸び悩む中、糸魚川市内のセメント製造企業は、インフラ整備の拡大により、セメントの需要が増加すると見込まれる東南アジアへのセメント輸出を拡大することを計画しています。

日本から遠く離れた東南アジアへの輸出は、一たび円高に見舞われた場合、たちまち競争力が低下してしまうマイナス要因があることから、セメント製造企業は、その解決策として3万トンクラスの船舶（現行1万から1.9万トンクラス）を新規に造船する計画を立てているところであり、姫川港の入港には水深11メートルの岸壁が必要になります。

水深11メートルの岸壁が整備されることにより、大型船舶の入港が可能になり、輸送コストの削減や輸出競争力の強化につながります。姫川港からの輸出貨物の取扱い量が増えることにより、荷役や運送を担う企業にも利益が上がると想定されます。

糸魚川市にとって、今後の展開に期待のかかる事業であると考えます。

(1) 姫川港西埠頭2号岸壁（水深11メートル）の改修事業期間が、平成10年度の開始から令和8年までとされており、現在までの進捗状況を伺います。

(2) 姫川港西埠頭2号岸壁の整備により期待される効果、経済波及効果について伺います。

(3) 松本糸魚川連絡道路の整備に伴い、長野県中信地域の海の玄関口としての役割も期待されますが、どのような効果が期待されるか伺います。

(4) 姫川港西埠頭水深11メートルの岸壁を整備する際に排出される土砂の容量と活用について、糸魚川市の考えを伺います。

(5) 令和8年度の完成に向け、姫川港の東側（寺島地区周辺）の周辺整備、開発についてお考えがあるか伺います。

2、糸魚川版C C R C構想の可能性と移住定住の促進について。

第3次糸魚川市総合計画（案）の中の第4章、地域が輝き、だれもが共に活躍できるまちづくり「移住定住の促進」の基本方針では、本市への円滑な移住に向け、魅力ある糸魚川暮らしを効果的に情報発信するとともに、「暮らす・働く」際の受け入れ体制の充実及び支援制度の確立から、地元出身者も含め地域に根づく多様な人材の確保に努めます、とあります。糸魚川市の移住定住促進にかける思いと、今後の展望について伺います。

(1) 都市近郊で暮らす方々に、二地域居住の地として糸魚川市を選んでいただくためにどのようなアプローチを行うのか伺います。

(2) 内閣府の「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」の中で、20代の地方移住への関心が高まっている理由を、糸魚川市はどのように分析されているか伺います。

(3) 移住定住に関する支援制度を利用した移住者が糸魚川市に定住していただくために、ど

のような努力が必要であると考えるか伺います。

(4) 国土交通省の、サービス付き高齢者向け住宅整備事業の概要の要件の中に「市町村のまちづくり方針と整合していること」とあるが、地方の独自性あるサービスや環境の提供により、高齢者の移住を促せるものとお考えか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、港湾整備計画に基づき、現在、港内のしゅんせつや岸壁の基礎工事、ケーソン製作工事等を実施いたしております。

2点目につきましては、大型船舶の入港による海外等への取扱い貨物量の増加、それに伴う荷役や運送など港湾関連事業の活性化、設備投資や雇用の増加等も期待するものでございます。

3点目につきましては、安定した物流経路の確保と輸送時間の短縮により、太平洋側の港に対して競争力が高まることを期待いたしております。

4点目につきましては、しゅんせつされた土砂の量は、15万立方メートルと推定されており、陸地での盛土処分が計画されております。

5点目につきましては、現在、整備、開発の計画はありません。

2番目の1点目につきましては、特に若い世代に向けて、当市にUIターンされた方のライフスタイルを情報発信いたしております。

2点目につきましては、コロナ禍に伴うリモートワークの普及が地方移住への関心を高めているものと捉えております。

3点目につきましては、多様な出会いや居場所などのネットワークづくりが必要と捉えております。

4点目につきましては、首都圏での介護需要の増やコロナ禍を背景として、地域で活躍できる元気な高齢者の地方移住を推進してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、順を追って2回目の質問をさせていただきたいと思っております。

一番最初の（1）から再質問させていただきます。

姫川港全体の事業が令和8年までかかると理解しておりますが、特に水深11メートルの掘削作業の進捗状況と掘削終了の予定を伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おはようございます。

マイナス11メートル岸壁のしゅんせつにつきましては、令和2年度に着手されておまして、現在、鋭意作業が行われているところでございます、令和7年度までの予定ということでお聞きをしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

現在のしゅんせつ作業は、まず順調に進んでいるのか伺いたいと思います。しゅんせつされた土砂をどのように現在取り扱っているのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

しゅんせつ作業につきましては、順調に行われているというふうにお聞きをしております。また、しゅんせつされた土砂につきましては、冒頭、市長が申し上げましたように、およそ15万立方メートルが予定されておまして、現在は港内などに仮置きをしている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

15万立方メートルということで、膨大な量ということが理解できました。その土砂をどんどん今現在港内に積み上げてるとということで、こちらも理解しました。

この姫川港全体の事業なんですけども、聞いたところによりますとタグボートを停泊させる港を整備するというご予定を聞いておるんですけども、その整備をすることでどのような手間や負担が省けて、どのような効果が得られるか教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、東埠頭のほうで小型船だまり、タグボートを置くための小型船だまりを整備する予定としております。今、姫川港でタグボートを使う際には、必要の都度、直江津港から回航をいたしております。今後、小型船だまりが整備されましてタグボートが姫川港に停泊できるようになれば、その都度、直江津港から来る手間が省けまして、また港に入る際にタグボートが不在で置き待ちをす

る状況もたまにございますので、そういう置き待ちの状況は改善されるというふうにお聞きしております。このことによりまして、荷役ですとか入出港の効率化ですとか迅速化が図られるというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

タグボートの件、理解できました。

それでは、（2）番、姫川港西埠頭岸壁整備により期待される効果というところで再質問させていただきたいと思います。

姫川港の改修総事業費が約320億円、これら投じた原資に対して大きな経済効果が見込まれると考えますが、このような大規模な投資は、小規模な3次産業の従事者の立場からすると、とても壮大なビジョンであると感じています。全国800の地方港湾の中で常にトップクラスの貨物取扱量を誇る姫川港、地方港湾では唯一の総合静脈物流拠点港としてとして、リサイクルポートとして、地域経済の牽引役として港でのさらなる発展が期待されていると、姫川港の紹介映像にもうたわれておりました。その静脈物流の発展が糸魚川市のどのような業界、業種に影響を与えるとお考えか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるように、姫川港につきましては、全国807の地方港湾の中で唯一のリサイクルポートでございます。循環資源物ですとか熊本からの災害廃棄物の受入れも行っております。リサイクルポートとしての機能が拡充することによりまして、リサイクル関連事業者の進出ということも想定されますし、また姫川港を利用する事業者であります製造業ですとか荷役、運送業はもとより、その関連事業者にも幅広くよい影響をもたらせるものというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

続いて質問させていただきます。

水深11メートル岸壁の整備によって、3万トンクラスの大型船舶の入港が可能となるということは、今まで入ることができなかった大きな船が入る。つまり、糸魚川市にとって輸出ばかりではなく、輸入の面でも取扱量が増えると考えますが、姫川港に関しては統計から見ますとロシアからの石炭の輸入が多くありますが、その他の輸入物品を取り扱える可能性も広がると考えてよろしいか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり、大型船舶によります主に東南アジア等へのセメントの輸出が好調だというようにお聞きしております。また、セメントの製造の稼働率が上がるようであれば、またそれに比例しましてその原料ですとか燃料の輸入が増えるものというふうと考えております。

また、現段階では新たに何か見込んでいるものは、現時点ではないというふうにお聞きしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

続けて（3）番、松本糸魚川連絡道路の整備の件で再質問させていただきます。

糸魚川の産業にとって生命線となる姫川港ですが、集積作業により国内出荷や輸出入が増えることでさらなる基幹産業の発展が期待されます。過去には、平成16年に568万トンの年間貨物取扱量を記録しております。十字型経済圏の発展とともにどの程度の国内出荷、輸出入を増やせると計画しているか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今現在、取扱い貨物量は400数十万トンで推移しておる状況でございますが、平成20年のときの港湾整備計画では、取扱い貨物量の目標値は683万トンというふうにお聞きしております。今後の経済情勢にもよりますけれども、現在、港を活用している企業の活性化と、また新たな利用企業の獲得によりまして、この数字は変化していくものと思われましても、今後の経済情勢なり動向によるものが大きいというふうと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

姫川港西埠頭水深11メートル岸壁の施工する一番の目的は理解できました。

それだけ糸魚川市の基幹産業の発展にとって大事な工事であるということ、それだけ糸魚川市にとって大事な事業であるので、県としても糸魚川市としても円滑な事業実施をお願いしたいと思います。

それでは、（4）番、排出される土砂の容量と活用について再質問させていただきたいと思いません。

先ほど、15万立方の土砂が排出されるというご答弁いただきましたが、姫川港よりしゅんせつされる予定の土砂は、どのような工法でしゅんせつされ、あらかじめ再利用などを意識した処理を行うのか、行っているのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

しゅんせつの工法につきましては、グラブ式と呼ばれる工法が採用されるというふうにお聞きしております。しゅんせつ土につきましては、これまで養浜事業へ再利用した実績があるというふうにお聞きしております。また、今後につきましては、再利用の方法とタイミングが合えば、そこに活用することがベストであると思っておりますけれども、諸般の事情により活用できない場合は、状況に応じて処分されるものというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

状況に応じて処分されるということで、まず港内にしゅんせつされた土砂を保管しているということなんですけれども、その港内にも容量があって、いずれどこか捨てる場所をしっかりと決めて廃棄しなければならない状況が来ると思うんですけど、今現在、その状況って差し迫った状況になっているのかどうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

しゅんせつ土につきましては、当然海からのものですので塩分等が含まれているわけでありまして。それも含めて仮置きをして、塩抜きといいますか、塩分を排除して、その後再利用するところがあれば利用するということでもありますけれども、現在その処分方法につきましては新潟県のほうで検討されている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今ほど、しゅんせつされた土砂、塩抜きというお話が出たんですけども、しゅんせつされた土砂を一定の場所に安全に廃棄する場合のコストは、どれぐらいかかると見込んでいるのか。その際、その費用は姫川港の改修総事業費に全て含まれているのかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

当然、姫川港の整備事業の一環でございますので、総事業費の中にそういうものは全て含まれるというふうにお聞きをしております。また、仮にしゅんせつした土砂が加工といいますか、そうい

う状況が悪いものでありましたら、それをまた少し加工して処分するなりする費用も入ってくるというふうにお聞きしておりますけども、今回、姫川港の場合にはそういう状況ではないというふう聞いております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

港内の中に、例えば外に出さなきゃいけなくなった状況の運搬にかかる費用という部分も、総事業費の中に入っているのか伺いたと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

当然、この近くで処分できれば一番工費が安く済むわけでありましてけども、諸般の事情から、例えば遠くまで運搬せざるを得ないようになる場合には、またそれも予算に組み込まれて対応されるものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

細粒分を多く含むしゅんせつ土は、一般に含水比が高く、建設材料としては比較的低品質であり、加工処理を行わなければリサイクルできない場合がほとんどであるとのことですが、ただ廃棄するにも運搬や積み込みのために土砂に何らかの加工が必要であるとの認識でよろしいか、伺いたと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

事業を行う際には、そういうもろもろの費用がかかってまいります。積み込みですとか、あと仮置きしてもまた次のところに運ぶためには、またそれにかかる費用も発生してまいりますので、本来ですとしゅんせつなり発生する側と使う側のタイミングが合って、うまく利活用できれば最善だと思っておりますけども、それらも踏まえた中で計画はされるとは思いますが、なかなかそういかない場合もございますので、その状況に応じた処理方法なり活用方法が取られるものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

続けて質問に入りたいと思います。

これから松本糸魚川高規格道路、東バイパス、親不知道路の施工に入れば、トンネル工事が中心となり、ずり出しの容量がさらに増えると考えます。姫川港西埠頭水深11メートル岸壁のしゅんせつ工事をはじめ、糸魚川市の発展には欠かせない県の事業であると考えますが、この膨大なずり出しの処理についての責任は、糸魚川市にもあると考えておりますが、責任の所在について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤喜代志君登壇〕

○産業部長（齊藤喜代志君）

おはようございます。お答えさせていただきます。

この県・国の大きなプロジェクトによる発生残土につきましては、現地である糸魚川市がやはりそういった残土処分場なりの手配について力を尽くさないとうまくいかないというふうを考えております。そういったところは事業主体のほうとも協議しながら、市のほうで候補地なり活用方法なりというのを考えていくといったことで対応していくというふうになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

例えばですが、ずり出しの土砂が処理の見当のつかない場合、市外や他県に受け入れてもらう可能性も考えられるのか。その場合、仮置場として預かっていただく検討や輸送費を新潟県もしくは糸魚川市が負担して、結果、他県の開発に寄与することも考えられますが、それだけ土砂の処理については十分な検討が必要と考えておりますが、現段階での検討状況があればお聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤喜代志君登壇〕

○産業部長（齊藤喜代志君）

お答えします。

大きなプロジェクト等も控えている中で、庁内的に残土処分というかそういった残土の処理場として適地はないかといったところは検討をしております。どこというのは具体的には申し上げられないんですけど、そういったところでこういった候補地として庁内としては検討しておると。ただ、いろんな条件がありますので、具体的なまだ排出量とかも分かりませんし、そういったものも事業の計画が進む中で、また事業者のほうと相談しながら適地を決めていかなきゃいけないと思いますし、場合によっては、可能性としては市外への搬出といったところも起きる可能性はあろうかと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

しゅんせつ土砂の活用の検討について、膨大な容量のしゅんせつ土砂が発生すると、一民間人の浅知恵と言われるかもしれませんが、例えば、あるエリアにしゅんせつ土砂を活用する前提で、そのエリアを埋め立てて交流の拠点、例えば道の駅などを造るアイデアが浮かんでまいります。ピアパークやマリンドリームの敷地を広げる、ショッピングセンターなどは5年や10年に一度リニューアルを実行いたします。公共施設である道の駅なども利用していただくお客様に飽きられない工夫が必要であると考えています。

そして、しゅんせつされた土砂をどの程度の加工ができるか、これは未知数ではありますが、例えば、姫川グラウンドに盛土し、リニューアル改修工事などもできないかといういろいろ考えてまいります。糸魚川市として、現実的にそのような活用のお考えはないか。ただ廃棄土砂として膨大な費用負担を、それを費用負担と捉えず、開発の費用に置き換える。場当たりに廃棄場所を探すのではなく、令和8年以降の完成を間近に控え、そのような発想や計画を今から考える必要があると考えますが、米田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

齊藤産業部長。〔産業部長 齊藤喜代志君登壇〕

○産業部長（齊藤喜代志君）

お答えいたします。

やはり、いきなり全部残土として処分するという発想ではなくて、いかに活用するかといったところがスタートだというふうには考えております。それについては、公共で活用するもの、それからタイミングよく民間でそういったものを必要とするところがあれば、民間のそういった開発に活用していただくといったことも、やはり市としては調整していくといったことを考えながらいかなければいけない。

議員のご指摘のとおり、早め早めに手を打っていかなきゃいけないといったところは、私どもも承知しておるところですので、これからのビッグプロジェクトに向けて早い内部での検討、そういったものを進めていくというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

姫川港の事業、松本糸魚川高規格道路、東バイパス、親不知道路は、県・国の事業ですが、糸魚川市にとって有益な事業であり、現実に向けて幾度となく要望活動を繰り返したことと思っております。5年後、10年後を見据えた大切な事業であるならば、糸魚川市も県事業を人ごととは捉えず、県事業に関して状況に応じた対応をしなければならぬと考えますし、県のアプローチを待つばかりではなく、未来に向けた重要課題として、現在市役所職員として所属する職員が、市長と共に責任者として夢と希望にあふれる未来の礎を築いていただきたい。しゅんせつ土砂、掘削土砂を夢と希望に変えていただきたい、強く要望いたします。

続いて、5番目の質問に入ります。

寺島地区周辺の周辺整備、開発についてでございます。姫川港を中心に西側については、青海シーサイドパーク、須沢臨海公園の交流の拠点が充実しておりますが、姫川港の整備と併せ、現在、寺島地区周辺の開発の予定があるか。先ほど、ないという答弁をいただいたんですが、いま一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

姫川港の東側の寺島地区には、現在、みなと公園と夕日ヶ丘公園がございます。ただ、新たな環境整備につきましては、現在計画されてるものはございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

姫川港の発展は、糸魚川市の発展と捉えて間違いないと考えますが、工業港としての魅力向上と同時に、周辺の開発にも意識を向けていただきたいと考えます。周辺地域のご理解が大前提ですが、現在ある施設に少し手を加えるだけで、糸魚川市の魅力もさらに向上すると考えます。リノベーションや見せ方の工夫により、費用をかけず観光の資源としてもアピールできると考えております。民間事業所の協力を得るなどして、最大限糸魚川の魅力を引き出していきたい、このように考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

議員おっしゃるとおりでありまして、公共施設、公共事業のみならず、今後、民間の動きがある場合には、民間に的確に対応するとともに、より経済効果が上がるような取組を進めていく必要があるというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、大きな2番、糸魚川版CCRC構想の可能性の項目に入りたいと思います。（1）番から順を追って再質問させていただきます。

二拠点居住の地として、糸魚川市を選んでいただくために、どのようなアプローチということでございますが、支援制度を利用し、移住されてきた方の決め手がそれぞれにあると思いますが、分かれば教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

おはようございます。お答えいたします。

議員のお尋ねであります。移住された方のお一人お一人に詳細にちょっと聞いたわけではございませんが、おおむねパターンといたしまして、移住される決め手ということで、まずは豊かな自然、それとこの地域で暮らす人というところが見えてまいります。

それとあと、創業支援ですとか、やっぱりビジネスにチャレンジできる仕組みがある。こういったところを決め手に移住をされたという方もいらっしゃいます。

それとあともう一点になります。移住される前にやっぱり糸魚川のことをよく知ってもらわないといけないと思うんですね。最初から移住して、後からあつという状況をつくっては困りますので、やっぱりまずは移住される前に糸魚川市を知っていただくという形で現地へ来ていただくような制度がございます。そういったときに、職員が現地に直接赴いて市内を案内する、そういったプログラムが決め手になっているのではないかなというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

事前に直接現地に来てもらう、大変いい取組かと思っておりますので、継続していただきたいと思いません。

続きまして、（2）番の意識調査に関する再質問でございます。

その分析を基に、糸魚川市はどの世代にどのようにアプローチ、これからしていくのか。はたまた、移住者としての対象年齢は、ほかの年齢層に絞っていくのか伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

議員の言われる内閣府の調査でございますが、新型コロナウイルスの影響でいろいろやっぱり首都圏にお住まいの方、全国も含めてなんです。意識というのは変わってきているというように思っております。その中でターゲットとしましては、やはり糸魚川市の人口構造を考えますと、20代、30代、若年層という形になってくると思っております。そういったところのアプローチで、今このコロナ禍でございますので、リモートワークが普及をしております。リモートワークでの関心が高くなっているというのは、データとしても出てきておりますので、そこら辺へのターゲットを絞りながらも、そのほかにもやはり糸魚川で活躍をしたいというような魅力を感じる方については、やっぱり大いに進めていく必要はあるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

続いて質問させていただきます。（3）番でございます。

糸魚川に定住していただくためにどのような努力が必要かという項目でございます。今後は、各自治体ごとに移住・定住に係る支援制度が充実し、移住者にとって選択肢がより取りな状況であると考えますが、第3次総合計画の施策指標を見ると、支援制度による移住者数を年々増やしていく目標は、終わりの見えない過当競争に進んでいくようにも見えます。制度の切れ目が縁の切れ目、潜在的に何かしらの魅力がある地域にしか移住者は来ず、各自治体がたゆまぬ努力をしても報われないこともあろうかと思えます。

いえかつ糸魚川のトップページにも表現されておりますが、糸魚川市が移住・定住を促進していく意義について伺いたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

今、議員のご質問の中で魅力がある地域に移住者というふうにおっしゃられたと思うんですけども、このところでは私も非常に同感をいたしております。魅力というのは、人それぞれ違います。そこをいかに引き出せるかというところは非常に大切なところだというふうに思っております。そういう点を含めまして移住の意義であります。データ上から言ってしまうと、人口構成を議員も第3次総合計画の人口ビジョンを見られたと思えますけれども、やはり若年層も含めた人口減少対策というところがデータ上からは読み取れてまいりますけれども、それだけではなくて、やはり糸魚川市で暮らしたい、糸魚川市でも活動してみたい、こう言っている人たちが増えて、やっぱり地域の元気ですか活気、そういったものが生まれてくるものというふうに私は捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

20代、30代の若年層というところで、増やしていきたいという答弁頂戴しました。

私、個人的な考えではありますが、移住者に対し、地域の担い手として過度な期待やお客様に過剰な対応を続けるのではなく、時間とともに地域の方々と同列な対応で十分ではないかと考えております。もちろん、粗末な対応がよいということではなく、移住された方々に自然と地域に溶け込んでいただきたいという願いからであります。後は、平穏な人間関係が定住の理由につながっていくと考えますが、糸魚川市の受入れ体制は、過剰な対応になっていないか伺いたいと思えます。

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

まず、移住される方はこちらの出身者ではございませんので、やっぱり糸魚川市のことについては私たちみたいな生まれ育った人間とは条件が異なりますね。そういったところもありますので、まずは定住していただくとその前提としてのやっぱり助走期間というのは大事だと思います。こちらへ移住される前のお試し体験ですとか、ちょこっと糸魚川暮らしとか、そういったところもありますけども、しっかりとしたやっぱり助走期間、前が大事だと思います。そういったところはしっかりサポートしていく必要があると思います。これを過剰だと言われれば改めなければいけない部分もございませうけれども、そういった助走期間がまず必要だということ。

それと、移住後もやっぱり相談に乗ったりとかサポートを続けていくという、そういうことを継続していきながら、徐々に地域コミュニティの中に溶け込んでいく、そういったことで考えております。受入れ体制につきましては、その来られる方の状況は全て異なりますので、一概にこれぞというものは無いというように思うんですね。そこはケース・バイ・ケースで我々もやっぱりいろんな経験をする中で失敗もあります。うまくいった例もあると思うんですね。そういったところは試行錯誤しながら、一つ一つデータを積み重ねていく必要があるんだなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

各自治体ごとに移住・定住に関わるメニューや制度などは、移住していただくきっかけと捉え、ある程度の割り切りが大切かと思っております。大切なことは、移住者の受入れ後の関わり方であると思っておりますし、地域にもともと住まわれる方々と同等のホスピタリティーでないと移住された方の気持ちの面で負担になるのではと考えております。

最も大切なことは、糸魚川市の移住を促進する意義であると考えております。それは、もともとお住まいの方々に地域に住み続けていただくための意義と同等でなければならないと考えています。人口減少の課題解決や担い手不足のために移住促進するのは、あくまで自治体の都合であって、移住していただく方に移住を促進している意義や思いをしっかりとお伝えいただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えいたします。

人口減少対策で移住・定住促進、自治体のご都合ということで言われておりますが、どうしても今は全国の自治体は同じ境遇に陥っているというふうに思っております。その中でやっぱり糸魚川市へ移住される前のしっかりとした糸魚川市の紹介、糸魚川市との生活の仕方、そういったものを状況をお伝えする中で、糸魚川市としては今ここでこういう人に困ってるんだ、いや、ここを助けてもらいたいんだ、そういった力を借りたいんだ、そういったお話をする中で、その人たちがやっぱり地域の、糸魚川市というのはこう困っているんだなというところをより深めてもらいながら、しっかり取り組んでいく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

令和10年度の最終目標、90名の移住者を目指し、頑張っていただきたいと思います。

あくまでこれも個人的な意見ではありますが、人口減少対策で一番効果のある対策は、家族や身内が外に出ている子供たちに帰ってきてほしいと投げかけることであると思っております。こちらは、以前も一般質問の中で私は申し上げましたが、そんな私も親から帰ってきてほしいと促され、糸魚川に帰ってまいりました。当時の私の帰ってくる意義は、商売で困っている親を助けたいという、少し残念な意義ではありましたが、今は帰ってきて本当によかったと思っております。帰ってきてほしいという声かけを市役所にしてほしいということではありませんが、巣立った子供たちに選択肢を与える大切なことだと思っております。市役所には、このコロナ禍で実施した出身大学生等応援事業のように、糸魚川ってやるじゃんと言われるようなUターンを考えている人たちの心に響く政策や支援策を充実していただきたい。令和4年度の市長への要望にもUターン施策を記させていただきましたが、重ねて要望したいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

今、議員からもいろいろなことを、Uターンのご自分のことをお話をいただきました。実は、私も親から帰ってこいというふうに言われて、実は帰ってきた組の一人であります。そういった中でUターンというのは、Iターン、移住者とは違って、やはりここに住んでいた、地の利が分かる方です。そこら辺のつながりをやっぱりしっかりつかむというのは大事だというふうに思っております。

今、議員から言われた出身大学生応援事業、コロナ禍というこういったピンチだったんですけども、逆にこれがきっかけになってつながりはつくったというところもございますので、引き続きこの出身者、何とか帰ってきていただくような、そのつながりを大事にさせていただきたいというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

Uターン施策に関しても、充実していただけるよう要望申し上げたいと思います。

続きまして、（4）番のサービス付き高齢者向け住宅の質問に入らせていただきます。高齢者の移住以前に、大前提として、糸魚川市の高齢者向け集合住宅の住居に関する現在の状況を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えをいたします。

糸魚川市内では、まずケアハウスといたしまして、合計で3棟、定員140名となっております。このほかに集合住宅ではございませんが、高齢者の共同住宅といたしまして1棟、定員が5人の住宅がございます。入居者の状況を見てみますと、市外から入った方もおられますが、多くは市内の方が高齢等によりまして住み慣れた家を離れて居住しているといったような実態がございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ケアハウスが3棟あって140名ということで、例えばそこを順番待ちみたいな、そういった状況があるのかどうか。その他施設についても、そういった順番待ちの状況があるのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

やはり、高齢者で独り暮らしになってきますと、この先が少し心配だなといったような形で事前にご相談をしているといったようなことは、施設のほうからも伺っております。具体的な数についてはお聞きはしておりませんが、そういったような皆さんニーズというのはあるものだとということで捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

サービス付き高齢者向け住宅整備事業の制度を実施して移住を促す成功事例は、近隣でございませうでしょうか。近隣市のスマートウェルネス住宅事業等の実態が分かれば、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田福祉事務所長。〔福祉事務所長 嶋田 猛君登壇〕

○福祉事務所長（嶋田 猛君）

まず初めに、サービス付き高齢者向け住宅の登録制度を利用した成功事例ということでございますが、市内ではサービス付き高齢者向け住宅はございませんので、そういったような事例は市内ではない状況であります。

また、スマートウェルネス住宅等推進整備事業、これは補助金でございまして、国土交通省が所管ということで、担当窓口は新潟県になっております。新潟県のほうで確認しましたところ、近隣市であります上越市の事例でございまして、令和3年度はこれまでにゼロ件、また昨年度、令和

2年度につきましては2件の実績があったというふうに伺っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

サービス付き高齢者向け住宅整備事業は、投資的経費が多くかかることから、自治体だけの努力ではなかなか成果に結びつかないというふうに考えております。このサービス付き高齢者向け住宅を実施し、新たな循環をつくり上げるために、高齢者の移住を促すにはどのような努力が必要となってくるか伺いたいと思います。

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

高齢者の移住ということも、ちょっと私のほうからもお話をいたしました。まずはここに住んでおられる糸魚川市民の方、大切じゃないでしょうか。そういったところも踏まえて、住まいだけの問題ではないというふうに思っております。やはり、住まいと地域との交流ですとか、あと高齢でありますので介護とか健康へのケア、こういった仕組み。それから、地域活動への参加できる環境、そういった要素が環境として整えていかないといけないですし、確かに行政だけではできませんので、やっぱり民間の力を取り入れながら進めていく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今ほど、民間の力ということでご答弁いただいたんですが、具体的にどういった力、こう考えると移住、より多くの人に移住していただきたいと捉えるとなると、やはりそういった情報、そういった潜在的にそういう移住を考えているという高齢者の情報というのが必要となってくると思うんですが、そういったところでそういった情報を入手するには、どういった努力が必要か、分かれば伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

移住の関係になりますと、どうしても若者向けへのライフスタイルというのが主になってまいりますが、今後はいろいろなアクティブシニアと言われる方の活躍も、市内でも実際にいらっしゃいます。山間地のところに関東方面からお越しいただいた方で、本当に地域のことをよくやっていたいいる方もいらっしゃいますので、そういった方も何か登場させるような形で発信のほうは進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

糸魚川市の人口減少のスピードは、年間800人と歯止めが利かない状況になっていると考えますが、真剣に人口減を食い止めるには、行く行くCCRC構想、高齢者が健康な段階で入居し、終身で暮らすことができる生活共同体も視野に入れる必要があると思います。現在、糸魚川市はその検討があるのかどうか、伺いたいと思います。

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに、高齢者、元気な段階でということになりますが、やはりこういった皆さんというのは、それぞれやっぱりいろんな経験を通して、いろんな知識、スキルをお持ちの方が結構いらっしゃるというふうに思うんですね。そういったものがフルに糸魚川市内で発揮できるような環境というところを非常に期待をいたしているところでもあります。そういった面も含めて、この事業、国の総合戦略の中でも明記されておりますので、いろんな他市の事例というのがあると思います。そういったところもしっかり事例も研究をしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

糸魚川市は、20代、30代のそういった移住を狙っていく。そういった中で、高齢者の移住に関しては、なかなか近隣の状況を見てもうまく進んでない状況も見受けられます。なかなかこれも報道に振り回されないようにしなければならない、しっかりと分析しなきゃいけないなという事案ではございますが、日本版CCRC構想は、目立った先進事例がないのが実態ではありますが、コロナ禍における状況の変化と移住者の動向の変化に敏感になっていただき、これからも積極的に研究を進めていただきたい、重ねてお願いとなりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

先ほどの答弁と繰り返しになりますが、いろんな事例もございます。やはり、住まいだけではなくていろんな環境が整わないとなかなか難しいというところはあります。

それと、今、国勢調査がありますね。令和2年度、2020年、国勢調査の状況も分析する中で、65歳以上の方の移動がどうなっているのか。入ってくる方は多いのか、出られる方が多いのか、そういったところの分析も進めながら、ニーズを見ていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

糸魚川市に限らず、その人口減少は加速度的に進んでまいると思います。こういった移住・定住に関する施策に関しては、本当に糸魚川にとって重要なものと捉えておりますし、これからも変わらぬたゆまぬ努力をしていただきたいと強く要望申し上げ、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、11時10分まで休憩といたします。

〈午前11時01分 休憩〉

〈午前11時10分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

古畑議員。〔17番 古畑浩一君登壇〕

○17番（古畑浩一君）

おはようございます。奴奈川クラブの古畑浩一であります。

これより、一般質問をしていきたいと思いますが、初めに雪崩により貴い命を奪われました50歳代の男性及び残されたご遺族の皆様にご心より哀悼の意をささげます。また、宣戦布告ないままに行われたロシアのウクライナ侵攻に対して、奪われた貴い命及び犠牲者に哀悼の意をささげるとともに、戦争に参加できない、またすることはできない日本人であります。少しでも反戦の声を上げていきたいと思っております。早期の戦争終結と、ウクライナ勝利のために。

それでは、一般質問を行います。

混迷する糸魚川市。諸課題への対応と行政責任について。

官製談合、副市長選挙違反、違算による入札失格業者受注など、度重なる不祥事は、長期間何一つ解決されておらず今日に至っており、市民はもとより、市内外に対して信頼を大きく損なうとともに行政業務を停滞させる緊急事態と受け止めます。このような事態は、議会議員の責任において到底看過できるものではなく、また、混迷を深める新型コロナウイルス感染症対策や対応を迫られる行政改革など、諸課題について以下により質問を行うものです。

(1) 官製談合防止違反等事件の発生から、裁判、判決までの経過と再発防止策、入札に対する